

結節性痒疹について

痒疹（ようしん）とは、強い痒（かゆ）みを伴う盛り上がった発疹がいくつも現れる症状を言います。虫に刺されたような小さな赤い発疹ができ、それが全身や各部位に多発するようになり、水ぶくれや色素沈着を起こす場合もあります。

痒疹には、急性痒疹・多形慢性痒疹・結節性痒疹などがありますが、今回は結節性痒疹について説明します。その特徴は、痒みの強い盛り上がり米粒から小豆くらいの大きさの硬いしこりになります。

原因は、何らかの刺激に対する皮膚の強い炎症反応と考えられますが、虫刺されや物理的な刺激、食物やヒスタミンと呼ばれる神経から伝達される物質なども考えられます。また糖尿病や肝臓障害などの内科的な疾患によるものもあります。

治療法は、ステロイド外用剤や光線療法などがあります。また、痒みを抑えるために抗ヒスタミン薬と呼ばれる内服薬を飲む場合もあります。部分的に症状が出ている患者さんには、ステロイド外用剤の使用、全身に症状が出ている患者さんには、光線療法も良いとされています。光線療法とは、症状が出ている部位にある波長の紫外線を当てる治療法を言います。

最近では、局所型、全身型用の便利な器機もいくつかあり治療も短時間で終わるようになっていきます。また重症の患者さんには、免疫抑制剤と呼ばれる薬剤を短期間内服する場合もあり、痒みが強く治りにくい患者さんには、症状が出ている部位にステロイド剤を直接注入する方法もあります。

平成 30 年 12 月

久米 廣昭